

IV 学校教育研究

1 研究主題

豊かな心で、伝え合い認め合い高め合う生徒の育成
～生徒一人一人の深い学びの実現のために～

2 主題設定の理由

(1) めざす生徒像

邑知中のめざす生徒像

つくす	「何か・誰か」のために頑張る生徒
つたえる	親身になって伝え合う生徒
つながる	仲間と力を合わせて活動する生徒

本校の教育目標は、校訓「らしくあれ」を基に、学校・家庭・地域が協働する中、三あい（学びあい、鍛えあい、育ちあい）により、人間性豊かな、強くたくましい生徒の育成に向けて以下のように目指す生徒像のゴールイメージを設定している。

目指す生徒像のゴールイメージ

自ら未来を切り拓き、社会で活躍するための素地となる「考動力（状況を見つめ、ゴールに向かって、考え、よりよく判断し動き出す力）」の育成に努める。

- 「何か・誰か」のために頑張る生徒の姿
 - ・単元ゴールや本時のねらいに向けて試行錯誤を繰り返しながら取り組む生徒
 - ・他者との関わりの中で協働的に自らの変容に気付ける生徒
- 親身になって伝え合う生徒の姿
 - ・自分の考えを持ち、相手意識をもって伝える生徒
 - ・自分の考えと他の考えを比べながら、聞いたり話したりできる生徒
- 仲間と力を合わせて活動する生徒の姿
 - ・他者を大切にしようとする思いやりにあふれる生徒
 - ・自他ともに向上心にあふれる生徒

(2) 生徒の実態

授業に前向きに取り組み、学び合い学習においても他と関わりながら意欲的に学習をしようとする姿がある。その反面、全体発表の場面では、自分の考えに自信が持てず消極的になる生徒が多い傾向がある。また、基礎基本が定着できていないために、積極的に学習に参加できない生徒も見られる。生徒会活動や部活動においては、上級生が自己の集団をより良くしようと積極的に活動する姿があり、下級生の良き手本となっている。このことが学校の温かい雰囲気につながっている。

3 生徒に身につけさせたい資質・能力

- (1) 考えの違いを受け止め、自らの考えを深めたり広めたりする力
- (2) 主体的に学びを深め、自分の考えを論理的に表現する力

4 研究仮説

- (1) 自己調整力を発揮させながら生徒自ら学ぶ時間（委ねタイム）を設定することで、主体的に学習に参加することができると考える。自分で学び取った考え方や学び方を振り返ることで生徒の学びが可視化され、自らの考えを深めることができる。また、振り返りを共有することで、考えの違いを受け止め、広めることができるだろう。
- (2) 「やればできる」基礎学力向上の取組を行うことで、自分の中にある教科の知識・技能が身に付き、論理的に表現しようとするときに、根拠を明確に自分の考えを表現できるようになるだろう。

5 取組の重点

(1) 「委ねる授業」と「振り返り」の効果的活用

授業の後半に生徒に委ねる時間（委ねタイム）を20分程度設定し、生徒主体で学びが深まったか、教師の働きかけなどの手立てが有効だったかを検証する。また、「振り返り」により生徒が自己の学びを自覚し、次の疑問を持ったり新たな課題を見つけたりして、生徒が主体的に学習を進められるようにするための「振り返り」の効果的活用方法を探る。

(2) 「やればできる」基礎学力の向上

課題や帯タイムを活用して、基礎学力向上の徹底していく。

(3) I C Tの効果的活用

HAKUISM DIvE や県教委のGIGA動画等を参考にしたり、ICTの活用実践例を校内で共有したりしながら、深い学びの実現のための効果的なICTの活用方法を探る。

6 具体的な取組

- (1) 単元に数回「委ねタイム」を意識した授業の実践。
- (2) 「振り返り」を活かした授業改善
- (3) 課題や帯タイムの活用
- (3) I C Tの効果的活用

7 学校教育研究全体構想図

